

2022年2月2日

SAAJ NEWS RELEASE

「証券アナリストに役立つ監査上の主要な検討事項 (KAM) の好事例集」を公表

公益社団法人 日本証券アナリスト協会（会長：小池 広靖 野村アセットマネジメント CEO 兼代表取締役社長）は、日本公認会計士協会の協力を得て、2022年2月2日に「証券アナリストに役立つ監査上の主要な検討事項（KAM）の好事例集」（以下、KAMの好事例集）を公表しました。

KAM (Key Audit Matters) は、監査人が財務諸表の監査において特に重要であると判断した事項です。我が国では、2021年3月期決算より KAM の記載が全上場会社等に強制適用されています。

【KAM の好事例集のポイント】

- 証券アナリストにとって KAM の利用価値は、大きく以下の3点である。
 - ① 監査の品質について一定の判断材料が得られること
 - ② 会社のリスクをより良く理解できること
 - ③ 会計上の見積り等について、証券アナリストとは別の観点から監査人がチェックすることにより、重要な参考意見となることこれらの有用な情報について、被監査企業の特徴や業種の特性を踏まえ、詳細かつ分かりやすく記載されている KAM が、証券アナリストに役立つ KAM である。KAM の好事例集は、そのような KAM のベストプラクティスを選定したものである。
- KAM の好事例は、以下のプロセスを経て選定した。
 - ① 日本公認会計士協会（JICPA）による機械的な一次選定
 - ② 企業会計研究会の有志による二次選定 <優良 KAM> 【23社】
 - ③ ディスクロージャー研究会の現役アナリストによるコメント
 - ④ <特別枠>（※）の選定 【3社】
 - ※ 全般的な評価は高くなくても、ある点については証券アナリストに役立つ、または監査人・被監査企業へのメッセージになる KAM の記載のある会社
- KAM の導入により、財務報告・監査報告書の利用者である証券アナリストと監査人のコミュニケーションが可能となった。KAM の好事例集が、証券アナリストのみならず、監査人にとっても有益なものとなれば幸いである。

[【添付資料】 証券アナリストに役立つ監査上の主要な検討事項（KAM）の好事例集](#)

本件に関するお問い合わせは下記まで

SAAJ 公益社団法人 日本証券アナリスト協会

電話：03-3666-1200

担当：企業会計部部長 土谷 敬